

物流分野の効率化・省力化に関する検討分科会（概要）

分科会提案者：東京ワンセグ放送株式会社・株式会社エコロングデン・石垣ケーブルテレビ株式会社

分科会の 目的

国内の社会情勢である人口減少・高齢化社会への遷移は、産業・経済を支える物流業界へも大きな影響を与えられとされる。その対策として今、多種多様な物流インフラを横断型に繋ぐ基幹物流ネットワークの構築が急務とされる。さらに、荷主事業者と物流事業者、消費者をシームレスに結び、調達から消費者まで、物流・商流のサプライチェーン全体を一元的・多元的に管理するとともに、集積されたビッグデータの活用についても重要課題となっている。これら課題を解決するため、物流を産業発展のハブとした考察を行い、物流全体の標準化・省力化はもちろん、見守り等地域の安全安心などの付加価値の創出、さらには国際的な競争力強化へと、早期実現に向けた検討・研究を行うことを目的とする。併せて、知的財産権創出や規制緩和分野の検討・研究を行う。

解決したい 課題

- 異なったシステムを繋ぐインターフェースの検討・研究
- 基幹物流ネットワークシステムの概要の検討・研究
- 標準化・省力化へのAI活用とデータベースの検討・研究
- 陸上・海上・航空物流ネットワーク及び国際物流ネットワークとの連携
- 基幹情報伝播網の具体的方法（通信・放送）
- 物流ネットワークを核とした地域社会への付加価値創成
- その他必要事項

対象 分野

- 交通・モビリティ □エネルギー ■防災
- インフラ維持管理 ■観光・地域活性化
- 健康・医療 ■環境 □農林水産業 □都市計画・整備 ■物流 ■セキュリティ・見守り ■その他（通信ネットワーク）

分科会での活動内容及び期待される成果

■分科会での活動内容

- 業界横断型の物流ネットワークを構築するための要件検討・研究（年度内5回程度開催予定）

物流体系を思考する上で、地場集配送、区間輸送（陸上・海上・航空輸送を含む）、物流拠点等について、切り離して検討することは必要ですが、総合的な視点に立っての検討・研究を行うことが最も必要である。

■期待される成果

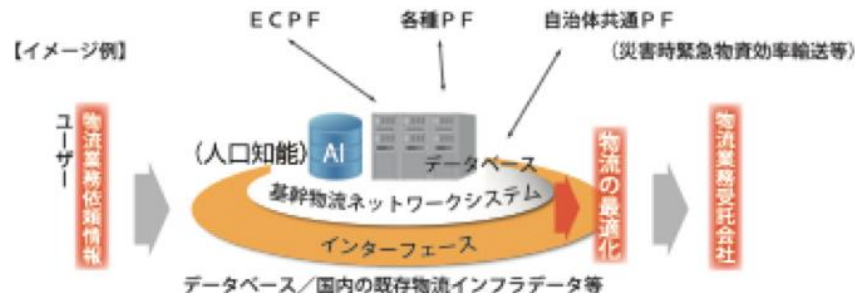
本分科会での成果が具現化した場合

- 効率化による大幅な物流コストの削減と省人化によるスムーズな物流体制が実現
- 物流のシームレス化により地産地消の促進と地場産業の活性化
- 貨物の一局集中から物流事業者全体への貨物取扱量の平準化を実現
- 地場集配送における物流各社の交差輸送の解消（労働環境改善や排気ガスの削減）

○荷主は、特定の物流会社を選ぶ必要がなくなり、本システムのプラットフォームから配送依頼を行うことが可能（荷主が既存物流業者をシェア）

○ビッグデータの活用で国際競争力が向上

○その他、緊急物資の即時輸送、見守り、緊急情報の即時伝搬など、物流ネットワークから様々な安全安心へのサービスを提供することが可能 ※国際標準の物流ネットワークシステムはまだ存在していないので、日本が先行して世界標準の物流ネットワークシステムを普及させるチャンスかと考える。



今年度の物流分野の効率化・省力化に関する検討分科会の活動予定

今年度の活動	活動のメインテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○既存の異なったシステム間をスムーズに接続（ネットワーク）するインターフェースの考察及び検討 ○既存の物流インフラ（特にハード面）を横断的にシェアするための仕組みの考察及び検討 ○国内（世界）の物流基幹ネットワークシステムとしての機能の考察と検討 ○緊急時の物流網の機能の考察と検討
	解決したい課題	<ul style="list-style-type: none"> ○物流関係業界の労働力の減少への対応 ○物流交通網の整理によるの交差輸配送の現状解消（長距離及び地域） ○情報化・効率化・省力化された物流網を自治体が有効な社会資源として活用活用 ○実用化への諸課題解消への取組

分科会での活動内容及び期待される成果

■ 分科会での活動内容

活動1：問題点及び課題の洗い出し。（随時）

活動2：求められる物流ネットワークシステムの全体像について随時検討

活動3：標準化（ソフトとハード）の規格の検討

- ・インターフェースにおける他システムとの互換項目について
- ・他業界及び海外へのサービス提供について

活動4：データ基盤とAI（人工知能）の考え方及び情報伝搬方法について

活動5：具現化への検討 / 物流拠点と機能について（国内）・初期の物流インフラの創出方法について・開発等のコストについて

■ 期待される成果

○効率化による大幅な物流コストの削減と省力化によるスムーズな物流体制が実現 ○貨物の一局集中から平準化を実現 ○物流各社の交差輸配送の解消（労働環境改善や排気ガスの削減） ○荷主は既存物流インフラをシェアを可能に ○ビッグデータの活用で国際競争力が向上 ○緊急物資の即時輸送、見守り、緊急情報の即時伝搬など、物流ネットワークを核に、様々な安全安心へのサービスを提供が可能。

実施スケジュール

活動1：令和3年4月～令和4年1月（メール・web・集合会議時）

活動2：4月～7月（メール・web・集合会議）

活動3：8月～10月（メール・web・集合会議時）

活動4：11月（メール・web・集合会議時）

活動5：12月～令和4年1月

連絡窓口

東京ワンセグ放送株式会社

担当：森 080-4126-9722

mori@tokyo1seg-tv.co.jp